

令和7年度山形市森林整備推進協議会議事録

- ・日時 令和7年7月29日（火）午後2時00分～
- ・場所 山形市役所10階 委員会開催室

・出席者

森林整備推進協議会委員13名

安部雄祐委員、平間利一委員、浅黄博美委員、志田ふみ委員、伊藤富士雄委員、会田幸子委員、多田千尋委員、佐藤良造委員、浅野弥史委員、林雅秀委員、白壁洋子委員、新関文子委員、森川東太委員

事務局8名

吉原農林部長、高橋森林整備課長、伊藤課長補佐、三沢林政係長、田澤森林整備係長、長南林道係長、林主任、大場主任

- ・傍聴者 なし

1 開会

2 委員並びに職員紹介

3 会長あいさつ

4 協議

（1）会長、副会長の選任について

- ・会長、副会長の選任に先立ち、事務局より仮議長に安部雄祐委員を指名した。
- ・仮議長が議事録証明人に志田ふみ委員、会田幸子委員を指名した。
- ・会長、副会長の選任について事務局案として会長に浅野弥史委員、副会長に庄司稔委員を提案し、会長に浅野弥史委員、副会長に庄司稔委員が選任された。

（2）令和7年度森林整備課事業概要について

- ・資料1に基づき、事務局より説明。

以下、質疑応答

【委員】

資料1、P3の山形市産材集成材製作事業について、市産材べにうっどを利用して、1,920本集成材を作成したとあるが作製したものはどのように利用されているのか。

【事務局】

作製した集成材は市内に建築している住宅の材料として使用している。

【委員】

資料１、Ｐ４の小・中学校への木材提供について、各学校にはどのように提供しているのか。

【事務局】

技術の時間に使用する板材の数量について、各学校から希望数を聞き取りし、その希望に沿った数量を納入している。これらの板材を活用して、学校の技術の時間で学生が木製品を作成している。コロナ渦でなくなってしまったが、以前だと２月ごろに展示会も開いていた。

【委員】

資料１、Ｐ９の市有林造成管理事業について、表中の材積調査と資源量調査の内容について教えてほしい。

【事務局】

材積調査とは市の財産がどのくらいあるかを把握するもので、市有林全体を何年かに分けて材積を毎年確認している。確認したものについては市の財産を管理している資産マネジメント課に報告を行っており、主に杉を中心に確認している。資源量調査は間伐実施予定地の調査ということで杉に限らず広葉樹も含めこういった資源があるか全体の状況を把握するための調査になっている。

【委員】

資料の作成について、森林整備係は事業ごとに数量を記載しているが事業ごとではなく山形市として主伐、間伐等がどのくらい行っているか、その内針葉樹、広葉樹の利用はどのくらいかなど全体像がわかるような資料を作成していただきたい。

また、今後の計画、どのように使用していくかについても併せて記載していただきたい。

さらに、資料１のＰ１の面積の合計値は、市有林の面積と私有林の面積が合算された値が記載されているが市有林と私有林を分けた表を作成していただきたい。

【事務局】

次回からそのように修正したい。

ちなみに山形市の私有林は 11,341ha。民有林が 12,844ha ですので民有林の約 9 割が個人の森林ということになる。

【委員】

資料１のＰ９について板橋山、門伝は皆伐・地拵えまですということなので来年度あたり再造林を検討していると思う。成長の良い特定母樹が来年度から本格デビューしますのでぜひ花粉症対策という面からも山形市さんにも特定母樹を検討していただければと思う。

また、林道に関して、山形市は大変尽力なされていると感じている。村山総合支庁管内で新たに林道を開設している市町村は人材面や、予算面や、費用対効果をあげられる山がないな

どの理由で少ないのが現状だ。県が予算を取ってきてくれるのかというのは県としての課題になってくると思うが、ぜひ計画期間内での完了にむけてご協力いただければと思う。

【事務局】

板橋山の再造林については来年度予定しているため花粉の少ない苗木や特定母樹について検討していきたいと思う。林道整備については山形市の単独事業ではなかなか進むことが難しいとおもいますので補助金等でいろいろご協力を得ながら進めていきたいと思う。

(3) 山形市森林整備計画について

- ・資料2に基づき、事務局より説明。

以下質疑応答。

【委員】

森林整備計画の最初のページに記載の「1 森林整備の現状と課題」について、生物多様性に配慮しながらの森林整備について部分的な記載になっていますがもっと大きく取り上げて記載してほしいと思う。やはり生物多様性への配慮というのは地球規模で問題になっているのでもう少し強調した記載にするべきだと思う。

【事務局】

計画策定時に同様の意見をいただいております、意見をもとに一文だけ書き加えた形にさせてもらっている。今後上位計画である地域森林計画との適合性を図りながら次回の計画変更時の記載方法について十分に検討していきたいと思う。

【委員】

資料2のP4の中に地域おこし協力隊を活用しながらとの記載があるが、今の段階で募集は行っているのか。

【事務局】

地域おこし協力隊については昨年度末から募集をしておりますが、問い合わせがあるものの実際に応募した方はまだいません。担い手育成の観点から今後も地域おこし協力隊の募集を引き続き行っていくとともに山形市地方森林林業活性化協議会でも人材確保に向けた取り組みを検討していきたいと思っております。

【委員】

以前森林経営管理制度で航空レーザー調査による境界確認を行っていると聞いたが、今現段階の進捗状況について教えてもらいたい。また、調査が終わった後の所有者に対する説明はどのように行っているか、それに対する所有者の反応についてもお聞きしたい。

【事務局】

山形市では航空レーザー計測の中でドローンの計測を行っている。航空レーザーの中でドローンを使用してる理由は航空機の計測よりドローンの方が詳細な森林の情報を取得することができるからだ。机上で森林の情報を確認し、所有者にも現場立ち合いではなくデータで境界の確認を行ってもらっている。所有者の方々からも肯定的な反応をいただいている。また、ドローン計測は令和4年度から行っており、令和4年度は東沢地区で約80ha、令和5年度は大曾根地区で約100ha、令和6年度は妙見寺で40ha、令和7年度は蔵王地区で50haを予定している。

(4) 山形市産材「べにうっど」のブランド化に向けた取り組みについて

- ・資料3に基づき、事務局より説明。

以下質疑応答。

【委員】

べにうっどという名称、ロゴマークともにとても良いと思うが、べにうっどとはどういうものを指すか、どういう特徴があるか等ロゴマークの下に説明があるとよいのではないか。

【事務局】

ロゴマークだけでなく、べにうっどの理解が深まるように説明を追記する等伝え方を検討していきたい。

5 その他

6 閉会